

「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【北区】

〈開催概要〉

日 時：令和5年9月2日（土） 9:30～11:00

会 場：北区役所 2階 B会議室

参 加 者：15名（傍聴者0名）

市出席者：市長、脱炭素社会推進課

事 務 局：市長公室秘書広報部広聴課

開催テーマ：地球温暖化対策について考えよう ～みんなでアクション とともに未来へ～

参加者との意見交換

●参加者

＜発言1＞

具体的なものではないのですが、私はJOC（日本オリンピック委員会）に勤めていて、スポーツという観点からも今温暖化の問題はすごく深刻です。さいたま市も大変スポーツが盛んなところですので、これは是非一緒に考えていただきたいと思っております。実は昨日、JOCのワーキンググループのプロジェクトがあり、たまたま温暖化のことを、スポーツの観点で話し合いました。そこで出た問題点として、例えば2050年の気候の予測で考えると、今までオリンピックが開催された都市や人口100万人以上の都市は193都市ありますが、そのうち122都市が8月のオリンピック開催ができないのではないかと、大きな問題があります。では、冬にやればよいのではないかとありますが、冬のオリンピックも世界では氷がない、溶けてしまって外の競技はできないというところがあります。

そう考えたときに、一人ひとりできることがあるのかなとすごく感じました。例えばうちも娘が作っているのですが、今日はお風呂を沸かさない日という札を作って、なるべく暑いときはシャワーだけにするとか、そういう小さいところからはじまり、家を建て直すときには太陽光発電設備をつける、電気自動車にするなど、そういう温暖化の阻止につながる取組は一人ひとりができるのではないかと思います。そして、さいたま市がそういう取組に非常に前向きに取り組んでいることは、誇りに思いますし、さいたま市の取組の一つとして、また皆さんと一緒にやる取組の一つとして、子どもたちが外で元気に遊べるような、気候変動の問題を考えていけるようなテーマの一つとして、スポーツについて発言をさせていただきました。

＜発言2＞

循環型社会で二酸化炭素の削減というテーマで私見を申し上げます。

さいたま市は、ごみ焼却場を最新鋭のものに建て替えることで、効率化と燃えかすの最小化、また熱エネルギーを利用する方針で進めています。だからといって燃えるものは何でも燃やしてしまえば、それが一番効率的で安上がりだということではいけないと思います。全国の市町村の中には、ごみのリサイクルを推進して80%以上も資源として活用している例もあります。そこまですべきとは言いませんが、せめて燃やすごみを減らす努力

はするべきだと考えます。例えば水分の多い生ごみであるとか、家庭で出る庭木の剪定枝葉、こういったものは資源として堆肥化するべきではないかと考えています。

そこで提案ですが、さいたま市には見沼田んぼや広い緑地があります。その一画を利用して堆肥化ステーションを設けてはいかがでしょうか。その堆肥化ステーションには、市民自ら一時処理をした生ごみや枝葉を搬入することで、市民の参加型の資源循環型社会を構築してはどうかと考えています。結果として燃やすごみを減らせることにつながりますし、何よりも市民が参加するという、そういった循環型社会を目指す市の姿勢が明確になるのではないのでしょうか。

今や環境に対する市民の意識というのは随分変わってきていると思います。堆肥化については全国のいろいろな例がございます。成功例、失敗例をお調べいただいて、さいたま型の堆肥化というものをお考えいただけたらいかかと思えます。

< 発言 3 >

私は、埼玉県地球温暖化防止活動推進員をやらせていただいて10年になります。また市では社会福祉審議会委員、地域では民生委員などをやらせていただいています。

このたび環境省からデコ活についての報道発表がありました。デコ活は、皆さん御存じかと思いますが、すなわち脱炭素につながる新しい豊かな暮らしをつくる、そういう国民運動です。デコ活とは、二酸化炭素を減らす脱炭素と、それから環境によいエコ、これを含む新しい言葉です。ロゴマークは、シンプルな蝶のマークに決まったようです。デコ活を簡単に申し上げますと、合い言葉で言いますと、デコ活の「デ」、「電気も省エネ 断熱住宅」。デコの「コ」です。「こだわる楽しさ エコグッズ」。「カ」ですね、「感謝の心 食べ残しゼロ」。それから「ツ」、「つながるオフィス テレワーク」と、こういう合い言葉があります。

環境に関しては非常に分野が広いと思います。私は、何を自身のテーマとするかということ、家庭の省エネ分野の活動に力を入れていきたいと思っていて、日常生活並びに機会があれば皆さんに働きかけをしていきたいと思っています。

< 発言 4 >

先ほどサーマルエネルギーセンターのお話がありましたが、私もバイオマスの発電がよいのではないかと考えています。さいたま市は、基本的には消費する地域で、電力にしても水力にしても、皆、他の地方からいただいている状況なのですが、例えばさいたま市だけではなく、埼玉県と考えれば、バイオマス燃料、ごみだけではなく、森林の間伐材などを使って発電することも可能だと思います。埼玉県内では秩父や飯能などの地域には林業をやっている方がいらっしゃいますが、そういうところから出てくるバイオマス燃料を使った発電をさいたま市内で行う形を提案します。バイオマス発電所はそう大きな出力を出すのは難しいかもしれませんが、環境的には非常に優しい、カーボンニュートラルな発電所になりますので、それを埼玉県内の燃料を使ってさいたま市で発電するような形を考えていただけたらよいかと思います。

最後に、身近な温暖化対策についてです。これは友だちがやっているのですが、非常に簡単なものです。麦茶を沸かすのをやめて、水出しにしたと。これだけのことですが、お湯を沸かさない。冷まさない。そのまま飲めるということで、これは燃料を使わないので、非常によいと思います。

あと、これから水不足対策も当然必要になってくると思いますが、先ほど、シャワーを流しっぱなしにしないというのもありました。これは松山市の例ですが、節水用のシャワーヘッドに対する補助金を出しています。あと、これもやっていると思うのですが、食洗器に対する補助金、改築の際の節水型トイレ設置に対する補助金があります。松山市はもう何十年も水不足で苦しんでいる土地なので、そういうことが社会に根づいています。さいたま市も、外からエネルギーをもらっているという意識を持った社会になっていけばよ

いかなと思っています。

< 発言 5 >

私は5年前に家を建てたのですが、そのときに雨水は浸透させるようにしてくださいということで、大手ハウスメーカーに、依頼したのですが、結果的にどうも浸透している様子がなく、さいたま市の建設局か下水のところに写真を撮って持って行ったら、これは垂れ流しですよと言われました。結局、ハウスメーカーに言って浸透ますに直していただいたのですが、ハウスメーカーいわく、戸建てで戸一戸造ったところは必須ではなく、法律違反ではないと言われました。2018年当時です。実際に私の近所には土地が低いところが何か所かあって、雨が降ると必ず浸水する場所があります。その家の方は自分でポンプを買って他に流して、大変苦労されています。そのような状況を見ていたので、浸透ますにしました。今はわからないのですが、大きな開発規模の場合は必須であっても、戸一戸のところはさいたま市では必須になっていないと言われたので、今はどうなっているかをお聞きしたいです。あと、ある程度大きなハウスメーカーについては、浸透ますの導入を義務化するなど、もう少し強制力を持って導入するように、ハウスメーカーに指導していただきたいと思っています。

< 発言 6 >

2日前、8月31日にさいたま市との公民連携セミナーというものに参加させていただきました。そのプロジェクトの中でグリーンイノベーションプロジェクトということで、大宮駅前開発の話があり、駅前を開発して魅力的なまちづくりをする中に緑をふんだんに使ってプロジェクトをする非常によい取組だと感じました。また、今日、説明をいただいて、さいたま市はいろいろな取組をやっているのも非常に意識させていただきました。

一個人としてできることは本当に少ないと思っています。私も朝、水でシャワーを浴びてきましたが、こういったことの積み重ねなのかなと思っています。住みやすいまちづくりとか、さいたま市としての取組の中で、いろいろな切り口あると思うのですが、例えば定期的にK P I (重要業績評価指標)を作って、現在の状況を発信するとよいと思います。一人ひとりの頑張りは個人個人で電気料金や節電の意識だと思うのですが、さいたま市として取組が進んでいるというのが、数値でわかるような発信があると非常に皆さんやりがいも感じ、また、それが魅力的なまちづくりにつながっていくと考えています。

< 発言 7 >

今回お話しいただいた中で、新しく気づいたこともいろいろあり、特に広報をもっと充実させるとよいのかなと思っています。さいたま市の中で、多くが開発を進めていると思うのですが、人口が増えているというお話もありました。人口の増加と開発は、一般的には環境をよくするエコみたいなことと相反するような面もあるかと思うのですが、そんな中で、まちづくりの一つとしてエコな活動などを組み込んで両輪で考えていくというお話がありました。これは非常によいことだなと感じまして、是非こういったエコな開発みたいなところが、モデルケースとして例えば市内はもちろんですが、日本全国さいたま市の外にも発信して、一つの模範的なケースになったらすごくよいなと感じました。

< 発言 8 >

私からは、家庭でできる温暖化対策ということで、生ごみの話です。先ほど、生ごみの話は出たのですが、重複をいとわず紹介させていただきます。

先ほど出ました堆肥化ステーション、これは非常によい案だなと私は思います。そもそも生ごみの処分の仕方なのですが、普通は燃えるごみと一緒に出していると思うのですが、これは非常に問題があります。生ごみは水分がほとんどであって、それを燃えるごみと一緒に燃やすと、燃え尽きるのに非常に時間がかかります。そうしますと、その間、二酸化

炭素の排出も非常に多くなるため、これはやめるべきだと思います。

代替案として、先ほどありましたように、生ごみを堆肥化するか土をつくるのか、そういう材料に使うのが一つの例としてあると思います。参考までに、生ごみのリサイクル率を調べてみたのですが、日本は8%だそうです。お隣の韓国は何と95%が生ごみのリサイクルをしているそうです。これは、見習った方がよいと思います。

生ごみの処分の2つ目は、リサイクルといってもどうしても燃やさざるを得ないものもあると思います。生ごみを燃やす問題は、水分が多いことなので、まず燃やす前に水分を徹底して抜くのが大事だと思います。我が家でやっているのは、今年の夏食べたスイカの皮は、厚さが大体2センチぐらいあるのですが、あれを燃えるごみと一緒に出して燃やしたら時間がかかると思います。それを、短時間で燃えるために、皮を天日に大体3日から5日ぐらい干します。そうすると、2センチぐらいあった厚さが、大体数ミリになって、からからになって、くるくると巻いてきます。その状態になって燃えるごみと一緒に燃やすと、短時間で燃えると思います。非常に細かい話なのですが、各家庭で徹底していただくと、かなり温暖化対策にはなると思います。

◆市長

>> 発言 1

スポーツと地球温暖化というお話がありました。今、オリンピックも193都市のうち122都市では8月にもうオリンピックができないのではないかと。特に今年の暑さは、高校野球を見ていた方もたくさんいらっしやると思いますが、もう夏はスポーツができる環境にはなかなかないのではないかとということをお自身もすごく感じていたところです。これからの夏のオリンピックや甲子園も、8月に開催して本当によいのかという議論も出てくるのではないかなという状況だと思います。気温が40度近くなる日もあり、多くの部活動をやらないでくださいと言っている中で、試合が行われている状況になっていますので、温暖化はスポーツにも物すごく大きな影響があると思います。また冬も雪がない都市が増えてくるというお話もありましたが、そうした中で、今後この温暖化の影響が非常に広範囲にわたって影響があることも改めて最近感じているところでもありますし、スポーツという視点からも、いろいろな具体的な取組はできるのではないかなと思っています。

また、あらゆる施策の中で温暖化の対策をすることはすごく重要なことで、今回のタウンミーティングには環境局が来ていますが、環境局だけではなくて、全ての施策をリサイクルだとか脱炭素化の視点で1個1個見直し、どう工夫をして全体として脱炭素に貢献ができるかという視点も必要だなと感じています。

>> 発言 2

非常に具体的な御提案をいただきまして、ありがとうございます。後からもまた堆肥化の御意見を頂戴した方がいらっしやいましたが、おっしやるとおり、燃やす量を減らしていくこと、これはすごく重要なことだと思っています。さいたま市は人口が結構増えています。1人当たりのごみの排出量は減ってきているのですが、もう一方で人口が増えているため、結果的にはごみの量が減っていると言い切れません。

その中で、御指摘のとおり、生ごみは、燃やすのにエネルギーがたくさん必要になるごみです。このため、スイカのお話も出ましたが、どうやってできるだけ乾燥させた状態で出していただくか、堆肥化をしていくか、いろいろな取組が必要になると思います。

その中で、見沼田んぼに設備をつくるという御提案もありました。市民参加型の資源循環型の取組などをシンボリックにやっていくことも非常に重要なことだと思います。そういった御提案なども含めて、私たちもまた検討していければと思っています。

>> 発言 3

デコ活のお話をいただきました。温暖化防止対策は国民一人ひとりがどのように取り組んでいくかが重要です。施策や企業の皆さんの技術開発などももちろん必要ですが、どのようにライフスタイルの中に取り入れていくかが非常に重要だと思います。私たちも、デコ活については今後参加ができるように、検討していきたいと思っています。

その中で、家庭の省エネのアイデアを積極的に提案されたいというお話がありました。まさに日常生活の中でいろいろな取組を進めていくことが大変大きな力になると思っていますので、私たちもこのデコ活も含めていろいろなことをやればなと思っています。

具体的な事例を皆さんに知っていただくのが、すごく大切だと思いました。スイカのお話が出ましたが、そんなに薄くなるのかと改めて知りましたし、それぞれいろいろな取組をされている方々がいらっしゃるのだらうと思います。それが1つのヒントになり、全部はできなくても、そのうちの幾つかは取り入れられる方も当然いらっしゃると思いますので、市民の皆さんが行っている取組をお知らせしていき、それを具体的な行動として市民の皆さんが1つでも取り入れてやっていただくことが、全体として脱炭素につながっていくのかなと感じました。

>> 発言 4

バイオマスの発電について御意見を頂戴しまして、さいたま市だけだとバイオマス発電の原料が十分に集まらないので、県内の材料を活用して行うという視点も必要ではないかという提案をいただきました。また、身近な地球温暖化対策ということで、麦茶を沸かすのではなく、水出しのものにするとか、節水型のトイレやシャワーヘッド、こういったものに替える補助金の御提案などもいただきました。

補助金については財源のこともありますので、全てというわけにはいきませんが、大きな力を発揮するものについては、積極的に補助制度なども活用してやっていくことはすごく重要なことだと思います。また、バイオマスについてもいろいろ検討していきたいと思っています。

>> 発言 5

浸透ますについては、今はっきりどうなっていると申し上げられないのですが、おそらく義務化にはなっていないだらうと思います。ただ、これをつけていただいた場合の補助制度は多分あったかと思っています。気候変動によって、短時間での集中豪雨が多くなっていて、内水で道路冠水したり、床下浸水したりということが、結構たくさん起こってきています。

その中で、一つひとつの家で浸透ますなどを持っていただいて、一遍にその水が流れないようにしていく工夫はすごく重要なことだと思います。台風19号のときに、荒川が決壊する可能性があり、今、第2、第3調節池を国の事業で荒川についてはやっています。河川の決壊であるとか溢水^{いっすい}ということだけではなく、短時間で急激に降るようなケースがたくさん出てきています。そういう意味でも、各家庭の浸透ますであるとか、市としても流域治水を含めて公共施設に、例えば校庭に、貯留機能を持たせている学校も随分増やしています。これは適応ということになると思いますが、そういったことも含めてしっかり考え、更に充実を図っていきたいと思います。

学校以外でも、例えば岩槻も内水があふれて浸水が多い地域ですので、岩槻にある諏訪公園の地下には調整池を造るといった工夫もしているところではあります。

>> 発言 6

ちょうどグリーンイノベーションプロジェクトのお話などをいただきました。その中で、定期的にこのK P Iの進捗状況を公表してはどうかというお話をいただきました。市民の方々を巻き込んでやる運動については、見える化をすることはとても大切だと思います。

私たちの目標に対して、皆がやってくださっている努力がどう成果として表れているのかということを知らせていくことは、すごく重要なことだと私たちも思っています。具体的なKPIを作ったりしながら、この運動化を進めていくことを私たちも充実させていければと思います。

>> 発言 7

広報をもう少し充実をさせるべきだというお話をいただきました。その中で、全体の模範になるようなケースをつくっていくことが必要だというお話をいただきました。私たちも、今日もいろいろなお話をさせていただきましたが、これは実を言うとほんの一部で、もっといろいろなことをやっています。このテーマのタウンミーティングは本日で9回目ですが、さいたま市が行っていることを初めて知ったという方が結構多かったように感じています。私たちもいろいろな形で広報をしているつもりなのですが、なかなか伝わっていないことについて改めて反省をしているところです。市の取組として御紹介したいことがあります。1つは、さいたま市は長年スマートシティさいたまモデルというのを美園地区でやってきました。そこは、最初は国の総合特区ということで指定をいただき、今いろいろな環境やデジタル化、スマートシティの分野でも、いろいろな事業を行っています。特にそこでやっている事業の一つとして、屋根には太陽光パネルがついていて、基本的には高断熱・高气密で冬でも15度以下には下がらない、そういった仕様の家を130戸ほど造っています。ですから、おのずと光熱水費について縮減ができるということもありますし、今は電気代がどんどん上がっている中で、最新のモデル街区では太陽光で発電した電気をその家だけで使うのではなくて、1回そのエリアの中で電気を大きな蓄電池で集約をして、そしてこれをうまくマネジメントしながら活用する、そういった取組をしています。これは大変注目をいただいて、去年はアメリカの環境保護庁の長官も視察に来ていただきました。あと昨年、国際会議をさいたま市でやったのですが、そのときにもマレーシアのクアラルンプール市のワンサマジユという都市で、さいたま市のような取組を是非やりたいというお話があり、先日私が現地を訪れてお話しをさせていただきました。

このように、いろいろな事業が少しずつ日本全体、世界にも注目されている状況ですが、まだまだ一般の方々には知られていないこともあります。モデル地区で行っていることを私たちも市内にいろいろな形で展開する取組を行い、より多くの市民の皆さんにも体感していただけるような、そんな都市づくりを進めていければと思います。

>> 発言 8

堆肥化のお話で、生ごみのお話は、非常に重要な視点だと思います。韓国は、生ごみのリサイクルが非常に多いというのは、初めて私も知りました。生ごみについては、私たちも大きな課題だと思っています。いろいろなリサイクルの仕方については今後検討していきたいと思っています。基本は、いかに燃やさなければいけないごみを減らしていくかが、これからも大きなテーマになると思っていますので、この生ごみの問題を含めて、しっかり取り組みたいと思います。

●参加者

< 発言 9 >

さいたま市に引っ越してきて、45年ほど大宮に住んでいます。昔は、こんなにさいたま市がテレビで取り上げられるようなことはなくて、最近すごい勢いでテレビに取り上げられていて、住んでいて誇らしい気分になっています。

省エネについて、大宮区の自宅と、親が持っていたアパートに太陽光発電設備を11年ぐらい前につけて、もう固定買取制度が終わったところです。私としては、もう自分たちで太陽光発電した電気を家の中でなるべく使おうということで、特に去年ぐらいはコロナで

リモートワークがはやっていたので、自分たちで発電した電気を使っていました。最近リモートワークが終わって、あまり昼間は電気を使いません。なるべく土日は昼間に、電気を使うようにしたり、食洗器もタイマーを使ったりして昼間にかけてよとか、そういうことをやっているのですが、そろそろもう自家発電の電気を使用するのも限界かなというところではあります。これ以上は蓄電池をつけるか、電気自動車を使用するくらいしかなく、日中に発電された電気の使い道のアイデアや支援など、何かさいたま市としてやっていただけると、市民として何かもう少しできるかなというところではあります。

あと、今言ったように、少しアパートの経営をやっている、アパートの太陽光発電設備も固定買取制度が終了しています。発電した電気は今までは東電に売っていたので、あまり電気を家の中で使わなかったのですが、そこを今後、入居者さんと一緒になってどうやって使うかを今考えているところではあります。全体の40%ぐらいが貸家と言われていて、さいたま市の場合には約20万世帯くらいになると思います。私は芝浦工業大学が母校で、その副学長さんと今アパートでの発電の話も説明させてもらっているのですが、借家の大家の中には事業者といいながら、結構何もやっていない方もいらっしゃるのではあります。行政としても、そういうところを巻き込んで支援したり、一緒に取組をしたりすると、すぐに自己消費率が上がり、再エネに進むのではないかなと思っています。アイデアをいただければと思っています。

<発言10>

今、皆さんから様々な取組のお話があったと思うのですが、この地球規模を日本の中だけで見ると、電気の消費量30%が個人で、70%が事業者という形かなと理解しています。今回この資料の中にも、市民の皆さんに対するアナウンスはあったかと思うのですが、例えば消費電力量の多い、例えば1事業者が少し努力をすると、実はそれが市民の皆さんの3年、4年頑張る消費電力量の削減と同等の効果があるということもあると思います。そういった効果をきちんと見極めて施策を展開することもよいと思います。もちろんそういったところも考えられているかと思うのですが、そういった発信が見つかりませんでした。多分皆さんも、私自身も含めてですが、なかなか気づかないが、行政として努力されているところもあるかと思っていますので、積極的に発信したり、あとは事業者向けの何か枠組みも今後検討されたりしていること、今、推進されていることがあったら、是非知りたいなと思いました。

<発言11>

今日はとてもよかったのが、家庭の中でできる温暖化対策についてです。今も電気代があまりにも高かったのが、私は一人暮らしですが、冬は暖房費がガスと電気ですべて4万円を超えてしまい、少しはらはらして困ってしまいました。夏は節約しようと思って、電気も小まめに消す、冷房もほんの少ししかつけないなど、一生懸命やっていたことが、自然に今日の家庭でできる温暖化対策になっていたのだと思いました。

それから、私も少し田舎にお家があるのですが、田舎の家はまきストーブがあります。生ごみはそこで燃えてくれるときもあるのですが、燃えてくれないときは、ストーブの中に押し込んでおいて、その次に行ったときに燃やして、燃やした後の灰は庭の花のところにばらばらとまいています。次のごみの日に出せないというプレッシャーがあったのですが、よい温暖化対策であったのだなと思います。

昔は大掃除のときに、家に少し広い庭があったのですが、そこで皆でゴミを燃やすのも楽しかったのです。5月頃の大掃除のときに兄弟そろって焼いたことがあったのですが、今は庭で燃やすのはいけないことですね。子どもの頃は、原っぱで燃やしていることも一、二回あったかなと思うのですが、もう本当に今は全くできなくなったので、温暖化対策はとても大変なのだなと思います。皆さん取り組んでいる課題でヨーロッパの方でも若い女の子が発言したことがありましたが、それがさいたま市でも取り組んでいるのだなと

思っ、今日、改めて知る機会となり、ありがとうございました。

<発言12>

私の方からは、適応策の観点から、現在夏季の災害の激甚化が進んでいる中で、夏季の避難所運営において体制を固めておくことが必要と考えています。私ごとなのですが、昨年まで大阪の大学のまちづくり系の学科で、ある自治体と夏季の避難所運営における熱中症対策というところで連携させていただいていました。そういった中で、避難所として多く使われる施設として学校が上がって、その中で最も本来業務から離れているところから避難所として使われていくというところで、主に体育館が使われるかなと思います。さいたま市は、普通教室には空調等、ほぼ100%備付けができていると思うのですが、まだまだ体育館にはそういった空調設備が整っていない中で、多くの住民の方々が避難してくると、高温多湿かつ密接した空間になります。熱中症被害が二次被害として生じてしまう可能性もあるので、その対策を平時のうちから行っていくべきかと考えています。

また、そういった指定避難所には防災グッズ等を備蓄されていると思うのですが、今までさいたま市では、そこまで大きな災害が起こる機会が少なかったところもあって、どんどん取り出しづらい場所にしまわれているのではないかと思います。急に災害が来たときに、いかに初動を保てるかが大切なので、総務省からの避難所運営マニュアルに沿っている決まられているとは思いますが、改めて今後の動きというところを平時のうちから整えておくことが必要だと感じました。

また、こういった社会課題に関しては、産官学民それぞれが連携する中で、相互に強みを出し合いながら取り組んでいくことが必要だと思いますので、こういったタウンミーティングという取組は、素晴らしいと思います。また総称でリビングラボという取組を是非今後も続けていただけたらと思っています。

<発言13>

リサイクルの会の会長をやっています。

私たちは、リサイクル資源を利用して講習会を開いています。今日、家庭でできる温暖化の対策を学びました。お湯をつくる、料理を作るときにはたくさんのエネルギーが必要と書いてあります。私たちが身近にできることは、シャワーを1分間短くすると1年間に3,650リットルの節約になるなど、温暖化の対策をお聞きしました。これからも吉野町と宮原公民館で、講習会を開きます。家庭でできる対策を皆さんに呼びかけて、私たち女性ができる、守るべきことを実行したいと思います。初めて参加していろいろな勉強になりました。

<発言14>

今日、初めてこのようなミーティングに参加したので、政策について聞ければという程度で参加したのですが、地球温暖化対策は大きな問題で、市だけではできないと思います。さいたま市の温暖化対策の取組を知れたのはよいのですが、その評価などが見えていません。そのため、取り組んでほしい分野としては、広報だと思っています。建物でもエネルギーを消費していますが、例えば昼休みに照明を消すといった活動をしていると思います。毎年どの程度の省エネ政策になっているかが市の広報で見えれば、住民でも努力したいという参加者も増えると思います。広報をしていただければ、伝播していくと思います。あとは、身近な地球温暖化対策として、防災を考え、窓に小さい太陽光パネルを設けて、携帯電話の充電に使えるようにしています。いかんせんマンションなものですから、大がかりなものではありませんが、住宅を造るときにできるだけ太陽光を推奨しているのであれば、そういうのも広報していただければ少しは変わるのかなと思います。

◆市長

>> 発言 9

太陽光発電を大分早くから設置をしていただいたと、それでアパートでも使っているお話をいただきました。おそらく早いタイミングで固定価格買取制度を利用されたのだと思います。固定価格買取制度も大分値段も下がり、どちらかという、今は、売るよりは自分たちで使った方が経済的な効果が高いのだらうと思います。そんな中で、さいたま市は蓄電池の補助もしていますので、蓄電池を使っていただいて、太陽光で発電した電気を有効に使うことは、非常に重要だと思います。まだまだ蓄電池の性能の問題もありますが、発電した電気を有効に活用していただくことは非常に重要なことではないかなと思います。

アパートの方のお話も出ました。多分若い世代の方だと、夜に帰ってきて、日中は家にいらっしゃらない方も多いと思います。余計に蓄電池を取り入れた方がよいのではないかなという部分と、余るケースもあるので、余る分をどうやって活用させていただこうかということも含めて考えなければいけないかなと思います。

今太陽光発電設備については、リースやP P Aという手法も出てきて、あまりイニシャルコストをかけなくても導入できるようになっています。原油高でエネルギーコストが上がっている中で、経済的にはメリットが出てきているのではないかなと思っています。P P Aとリース、どちらの手法がよいかは、それぞれの状況によって違うかもしれませんが、是非太陽光による発電をしていただくとありがたいかなと思います、また、そのアパート経営をされている方に何かサポートしていくという発想はすごく重要だと改めて思いました。

それから、芝浦工業大学とは今、脱炭素の先行地域の取組を一緒にやらせていただいたり、SDG s の取組もやらせていただいています。

>> 発言10

事業者向けに対策をすることで、もっと効果を上げられる可能性があるのではないかなという御提案をいただきました。今、さいたま市としては、一部太陽光整備など、事業者もサポートできる補助制度があったと思います。また、電気料金をサポートする方法もありますが、それでは一時的なものになってしまうため、さいたま市では経済局で、省エネの電気設備に替えていただく、例えばLED化や冷蔵庫などを省エネ型に替えるための補助制度を設けています。事業者の経費の中で、電気料金はとても大きな割合を占めています。そのため、一時的に高くなった電気料金を穴埋めするのではなく、省エネの機器に替えていただくことで、長期間にわたって節電・省エネの効果を得る取組をしています。事業者向けの支援というのも、すごく重要なことだと思いますので、支援策を更に拡充していきたいと思います。

>> 発言11

家庭でやっていらっしゃる取組についてお話をいただきました。冷暖房の節約ですとか、特に冬場の暖房は非常にエネルギーが必要で、物すごく電気代がかかりますが特に夏場の冷房をあまり我慢してしまうと、熱中症になってしまいますので、是非適切に使っていただければと思います。さいたま市のデータでも、室内で熱中症になられる方の半分近くは、室内で熱中症になっていますので、是非適切に使いながら切電をしていただければと思います。

>> 発言12

夏の避難所の対策について検討しておく必要があると、平時から検討しておく必要があるということで、体育館の空調設備の設置というお話をいただきました。さいたま市は、中学校についてはあと一年ぐらいかかりますが、来年いっぱいぐらいで、57校の中学校の体育館には全て冷房を入れます。小学校は104校、5校ありますが、ここもやっていかな

てはいけません。しかし、空調設備なかなか費用がかかります。今、国の緊急防災・減災事業債という地方財政措置があり、その延長が決定した場合には、この地方債を活用し、小学校の体育館にも設置していきたいと思っています。体育館については、非常に空間が広くてなかなか効率的な空調設備にはしにくいので、単に空調を設置するだけではなくて、高断熱・高气密な造りにしないと、非常に電気代もかかってしまうので、そういったこともあわせてやっていきたいと考えています。

さいたま市の芝川小学校で、これは民間の皆さんにも御尽力いただいて、学校の校舎の高气密・高断熱化に取り組んでいます。エネルギーの使い方を削減するのがありますが、高断熱化をすることで、エネルギーを使う量を大幅に減らすことができると言われています。国も、窓ガラスを二重三重にするための補助制度などをつくっていて、私たちも学校や公共施設についても、そういった発想も含めて取り入れながら、エネルギーの消費量を削減していく必要があると思っています。

>> 発言13

日頃からリサイクルの会で御尽力をいただきまして、本当にありがとうございます。私たちもできるだけ具体的な取組、こうするとこういうプラスがありますよということをたくさん市民の皆さんに知っていただけるように、情報提供もしていきたいと思っています。生ごみのお話と通じる部分であります。さいたま市は、三、四年前から、Saitama Sunday Soupという運動を推奨しています。これは、日曜日には冷蔵庫の中にある野菜を使ってスープを作って、家族で団らんしながら楽しく食べましょうという運動です。楽しい動画ができていますので是非ご覧ください。どうしても野菜など、少し使い切れないことがありますので、これをうまく使っていただくことを運動化しています。他にも、事業者向けで「チームEat All」という食品残滓^{ざんし}をなくしていく取組や余った食品をいろいろなところで活用していただく取組をあわせて行っています。去年は食品のリサイクルの大会も、さいたま市で行っています。

>> 発言14

まず広報をしっかりしていくことが重要ではないかというお話がありました。知っていただくことは、本当に重要なことで、多分今日私がお話した中でも、皆さん初めて聞いたというお話が結構多かったのではないかと思います。今日話した以外にもさいたま市ではいろいろな取組をやっていますが、それがなかなか伝わり切れていない状況があります。どう効果的に市民の皆さんにお伝えしていくかということは、まだまだ工夫の余地があると思います。また、先ほどもお話がありましたが、自分たちが取り組んでいる努力に対してどういう成果があったのかを見える化をすることによって、私たちももっとうまく伝えていきたいと思っています。そして、それをモチベーションにしていきたいと思っています。

最近、環境だけではないのですが、さいたま市は1位になっているものが非常に増えてきて、私は、挨拶をするたびに、なるべくその1位をたくさん申し上げるようにしています。

例えば、住みたいまちランキングで大宮が3位、SDGsも2回連続で全国第1位、教育も英語が全国で圧倒的に第1位など、いろいろなデータを使ってお話をさせていただいています。単に、さいたま市の教育はよいのですとか、環境でよいことをやっていますとお伝えするよりは、インパクトがあり、伝わりやすいと思いますので、そういった数字を使ってお伝えしています。皆さんがやっていただいている努力はどう成果を上げているのかということも、本当に重要なことだと思いますので、広報の工夫も、しっかりやっていきたいと思っています。

ちょうど11時ということで、予定の時間になりました。土曜日の午前中からたくさんの皆さんに御参加いただきまして、ありがとうございます。皆さんから大変貴重な、また具体的な御提案をたくさんいただきましたので、私たちもお話をしましたように、今後実施計画の改定の中に、また生かしていきたいと思えます。また、いろいろな施策もやっていかなければなりませんので、そういった中にも取り入れさせていただければと思えます。

大変貴重な意見をいただき、心から感謝を申し上げたいと思えます。また、引き続き、今後こうしたタウンミーティングを続けてまいりますので、是非また機会があれば御参加をいただければと思えます。

■ 補足説明

「一人ひとりができること」について

ご意見いただきましたとおり、地球温暖化を防止するには一人ひとりの積み重ねが大切になります。本市では、市民の皆様にも温暖化対策に取り組んでいただくために、「家庭でできる温暖化対策」というテーマで出前講座を行っております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「家庭で出る庭木の剪定枝葉、こういったものは資源として堆肥化」について

剪定枝は民間事業者のリサイクル施設を利用いただくよう、周知を行っております。

(環境局 資源循環推進部 資源循環政策課)

「麦茶を沸かすのをやめて、水出しにした」について

お話しいただいた内容については、燃料を使わない非常にエコな取組で素晴らしいと思えます。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「食洗器に対する補助金、改築の際の節水型トイレ設置に対する補助金」について

すでに太陽光発電設備等に対して、補助金事業を行っております。申請期限前に予算の上限に達するような、市民の方々からのニーズが高い補助金となっております。予算や環境への効果、市民の方々へのニーズなどを総合的に判断して、補助金のメニューに追加するか検討いたします。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「浸透ますをつけた場合の補助制度」について

本市では、雨水浸透ます等の補助制度はありません。令和4年12月議会一般質問を受けて、流域治水推進協議会（事務局：河川課）において調査・研究することとしています。

(環境局 環境共生部 環境対策課)

「定期的にKPIの進捗を公表」について

本市のHP上で、実行計画の進捗状況を毎年公表しております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「日中に発電された電気の使い道のアイデアや支援など」について

本市では出光興産株式会社との連携事業として、市内のご家庭の太陽光発電で発電された卒FIT電力を公共施設や市域で活用するため、出光興産株式会社が買取を行うという事業を行っております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「事業者向けの補助金」について

事業者向けの補助金としまして、毎年度実施している「創エネ・蓄エネ補助金」に加え、国の交付金を原資とした「さいたま市重点対策加速化事業補助金」が今年度より開始いたしました。令和9年度までの間に、集中的に事業者向けの太陽光発電設備と蓄電池の普及に取り組んでいく予定です。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「室内で熱中症」について

令和5年度の本市での熱中症による救急搬送者数は、屋内で34.5%となっております。(保健衛生局 保健部 保健衛生総務課)

「今後の動きを平時のうちから整えておくこと」について

ご意見いただいた通り、防災倉庫内の備蓄品が適切に整理されていることは、円滑な避難所運営にあたって重要であると考えております。

本市における、防災倉庫内の管理方法についてですが、各避難所の避難所運営委員会において、委員会での協議の場や運営訓練の機会などを活用し、年1回以上の現地の確認をしております。その際、備蓄品の搬出が困難にならないよう、適宜倉庫内の整理や配置の変更を行っているところであります。

(総務局 危機管理部 防災課)

「広報をしっかりとっていくこと」について

本市では、市民の皆様が開催する集会や会合、学校の授業などに、市の職員が出向いて市の施策や制度、事業等について分かりやすく説明する「出前講座」を実施しています。この出前講座の中には、地球温暖化対策に関するものも含まれておりもっと活用いただけるよう、周知等図ってまいります。出前講座は直接市民の方々へ情報を伝達できるイベントですので、今後は伝え方など含めて、広報していきたいと思われました。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「デコ活」について

さいたま市でも地球温暖化という切迫した全人類の課題解決に向けて、今後も市民の皆様と英知を結集させ、次世代に良好な環境を引き継ぐために、「デコ活」宣言を行いました。今家庭分野含めて、市民の方々や事業者の方々の省エネ活動を、後押ししていきたいと考えております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)